

太田 吉浩議員



Q どんな村づくりを行うのか

A 村民中心を前提に
住み続けたい村に

太田議員 震災から1年が経過した。今年も梅雨入りし、震災で緩んだ地盤の土砂崩れ等が心配だ。仮設住宅の入居期限は原則2年で、その半分以上が経過しつつある。個別具体的な生活再建支援も待たなした。村は未だ非常事態が継続しており、被災した村民は、吉良村政への期待

が大きい。これから、どういふ村づくりを行っていくのか。その政策予算が今回の補正予算にどう盛り込まれ、具現化されたのか。村長座談会は結構だが、今は対話で足が止まるのではなく、決断と実行で復旧復興を加速させる段階だ。政策の優先順位はどう考えているのか。

村長 村民中心の村政を前提に、住みたい、住み続けたい村づくりを目指す。「暮らし」「環境」「活力」の3つを軸に予算化した。「暮らし」では、子育て支援・高齢者の社会参加・地域防災力の強化を盛り込んだ。「環境」では、水源地の整備に取り組む。「活力」面では、農業と観光、地域づくり活動支援、南阿蘇鉄道復旧対策を予算化した。

待が大い。これから、どういふ村づくりを行っていくのか。その政策予算が今回の補正予算にどう盛り込まれ、具現化されたのか。村長座談会は結構だが、今は対話で足が止まるのではなく、決断と実行で復旧復興を加速させる段階だ。政策の優先順位はどう考えているのか。

優先順位は、①災害復旧事業、②地域バラ

村長 今回の4回目の選挙だったが、村民対話・情報公開・村民中心の村政実現は、終始変わっていない。しかし、細かいことは、社会情勢や私の体力、家庭の状況で見直しが必要になる。見直したことは丁寧の説明し、理解を求めたい。

待が大い。これから、どういふ村づくりを行っていくのか。その政策予算が今回の補正予算にどう盛り込まれ、具現化されたのか。村長座談会は結構だが、今は対話で足が止まるのではなく、決断と実行で復旧復興を加速させる段階だ。政策の優先順位はどう考えているのか。

政策の検証は、私なりに考え、ホームページ

太田議員 合併後、保育所に小学校、中学校に庁舎統合が実現したが、それに伴い空き施設が村内各地で放置されたままだ。この利活用をどうするかを、1期目2年度の間で取り上げた。その中で、村民や議会、有識者を交えた跡地利用計画の検討委員会設置も提案した。村が主体性を持つて、

等々で公表していききたい。現在の取れた活性化事業、③慣例に捉われない財政改革。色々な意見を総合的に判断し、優先順位を的確につけていきたい。

未来思考と村内バランスを考慮した攻めの利

太田議員 28年度に総合

活用計画が必要だ。現在、公共施設の総合管理計画はどうなっているのか。検討委員会は、いつ立ち上げるのか。各施設で、具体的な活用法に進展はあるのか。



地域の賑わいを取り戻す活用を (旧白水庁舎)

Q 公共施設の総合管理計画は

A 地域活性化対策を盛り込み、再検討したい

計画が策定されたとの答弁だが、未だに議会には示されていない。旧久木野庁舎は図書館になるとの噂を聞くが、議会には何の予算も上程されていない。期待感だけが独り歩きしないよう、きちんと財源を踏まえて議論すべきだ。

副村長 28年度の総合計画には、地域活性化対策が盛り込まれていなかった。再検討して盛り込みたい。今後、議会にも報告する。